

大学間連携これまでの経緯

- 京大3.8m 岡山に設置予定

運用・維持予算は？ 既存附属天文台の運営縮小、寄付、他に？

- 広島大1.5m 東広島 既設

- 岡山観測所 既設望遠鏡

昨年度UMのトラペと
だいたい同じ

⇒ 連携して、研究を展開できないか？

⇒ 概算要求「大学間連携」に出せないか？

(VLBIの時のように。地球電磁気でも成功例)

⇒ 東大(1m MINITAO)、名古屋大(1.4m IRSF)、鹿児島大(1m)等を含めて、世界多地点の中口径を用いて、各観測所の観測モードを活かした、大学間連携を出せないか？

⇒ GRB等突発天体のNIRでの24時間監視・連続観測、多機能観測

H23年度から5年間程度をめざす ⇒ 6年に

まだ参加大学の増減は若干あるかもしれない ⇒ 増えた

特別教育研究経費：研究推進経費：大学間連携経費

- 2010年冬から、文部科学省、各大学等で、詳細な打ち合わせ。天文台からの概算要求として出す。(初夏)
- 国内望遠鏡
 - 国立天文台岡山 50cm、91cm 可視、NIR即時撮像
 - 京都 3.8m 撮像？可視高速測光、可視高速分光 分光
 - 広島 1.5m 可視、NIR撮像、可視偏光観測
 - 鹿児島 1m NIR即時？撮像
 - 東工大 明野50cm等
- 国外望遠鏡
 - 東京 チリアタカマ 1.0m 可視、NIR撮像(即時？)同時、MIR撮像？
 - 名古屋 南アフリカ 1.4m NIR3色同時？撮像
- 各大学に予算配分。共同研究(教育)を展開しよう
- 具体的中身は検討続行中(中小口径WS等)